

守口市生涯学習情報センター指定管理者制度 総合評価(施設所管課による評価)

【評価対象施設】 守口市生涯学習情報センター

【指定管理者名】 公益財団法人守口市文化振興事業団

【評価対象年度】 平成27年度

【施設所管課名】 市民生活部 生涯学習課

施設のサービス水準の視点 コメント

施設利用者数が昨年度と比較し、約18,900人減少していることもあり、貸館としての稼働率においても下降傾向が見られるため、施設利用者の増加(回復)に繋がる取組み(広報・営業活動・新規事業の実施等)が守口文化センター同様必要である。また、平成27年4月からインターネットによる蔵書検索・予約システムサービスがスタートし、当該施設は市内の中で一番蔵書数も多く、本市の中央図書館的役割を担っていることから平成27年度は図書等の貸出人数が昨年度と比較して約2,900人増加したが、利用者からの問合せ・苦情等についても適切に対処し大きな混乱もなく、図書サービスの提供に努められている。結果、アンケートの実施結果も踏まえ、施設として良好なサービスが概ね提供できていると判断した。

収支状況 コメント

平成27年度については、約311万円の黒字決算である。最大の要因としては、支出面での抑制(電力の自由化による光熱水費の削減・人件費の削減等)が挙げられる。しかし、利用料金収入については目標値(1,840万円)を大きく下回っていることから、経費削減による収支バランスの改善だけではなく、利用料金収入はもとより、文化事業収益の増加による改善が必要である。今後も、支出面での抑制を図りつつ、利用者のニーズに沿った事業展開を効率的に実施し、黒字決算を維持するとともに、施設の適切な管理運営に努められたい。

市(施設所管課)による総合評価

非常に人気の高い事業である「土曜ステージ」、「なつやすみファミリーフェスタ」の継続開催等、子どもから高齢者を対象とした幅広い事業を展開し、生涯学習の推進に努めている点は評価できるが、施設の稼働率については、守口文化センター同様、年々下降傾向にあることから、当該施設を貸館として使っていただくための営業活動(チラシ作成等)を行うなど、施設利用者数の増加(回復)に繋がる取組みの実施が必要である。また、収入面においても、黒字決算である点は評価できるが、収入目標大きくを下回っており、利用料金収入の増加に努められたい。また、「守口市指定管理者制度におけるモニタリングの指針」に基づく利用者アンケート調査については、「一般利用者・施設利用者・図書室」の対象者別に実施はしているものの、集中的(1ヶ月単位)に行うのではなく、年間を通して実施する必要があることや、四半期ごとに集約する必要があることなど、実施方法について再度指針を確認するとともに、遵守願いたい。

総合評価

B

総合評価区分

- A : 協定事項等を上回る水準で施設運営がされ、大変良好なサービスが提供されている
- B : 概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされている
- C : 協定事項等の水準以下であった